

「遺伝性がん 当事者からの手紙」

写真 パネル展



私が乳がんと分かったのは31歳の時だった。その時娘たちは5歳と3歳。
がん＝死と思っていた私は、毎日泣いた…。こんな幼い子を置いて死ぬんだ私…。

闘病中、私のそばではいつも娘たちが笑っていた。
全摘した胸を見た時も、抗がん剤で髪の毛が抜けてツルツルになった頭を見た時も。
そして私もいつしか、泣くよりも笑っている時間が増えていった。
あれから5年が経ち、今なんとか生きています。こんなに元気に!

今でも娘たちは、相変わらず私のそばで笑っている。
この子たちにずーっと助けられているな…と感謝する毎日。本当にありがとう!!

その後の検査で、HBOCだという事が分かった。
「だから私はがんになった…」「娘たちにも受け継がせているかもしれない…」
「申し訳ない…」どうしよう…。次から次に不安が押し寄せてきた。

娘たちには、検診に行く大切さ、自分の体は自分で守る!という事、
これから少しずつゆっゆーりと教えていこうと思う。
私のような思いは絶対にさせたくない!
でも…。一番は、私がちゃんと一生懸命生きてる姿を見せる事かな〜と

がんばろp(^△)q

30代女性。夫と娘2人、義父母との6人暮らし。31才右乳がん発症。
リスク低減卵巣切除術を決心し手術直前にキャンセルすること2回。現在も迷っている。

描いた
「どなたでもお気軽にお立ち寄りください」
「いらたメだばと思っ

どなたでもお気軽にお立ち寄りください

展示期間

2025年

12月8日(月) ~ 12月26日(金)



会場：岐阜県総合医療センター 1階外来 ホワイエ
〒500-8717 岐阜県岐阜市野一色4丁目6番1号

お問い合わせ：岐阜県総合医療センター 遺伝子診療科

主催：地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 遺伝子診療科

協力：一般社団法人日本遺伝カウンセリング学会/遺伝性腫瘍研究会/NPO法人クラヴィス アルクス